

平成30年西日本豪雨緊急 災害調査(橋梁G)

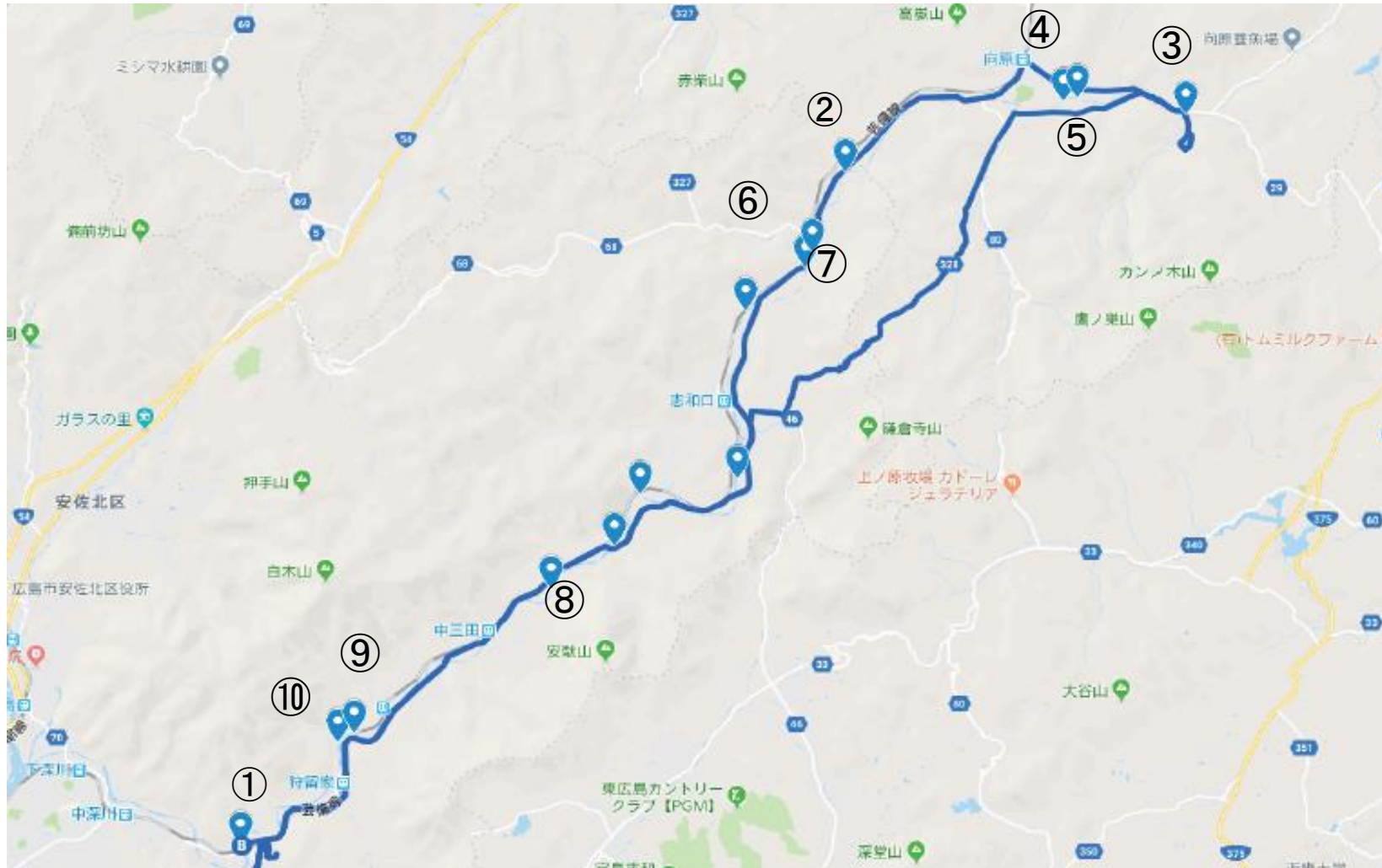
合同調査メンバー(敬称略)

柴田俊文(岡山大)・渡辺学歩(山口大)・

海田辰将 学生(徳山高専)・河村進一(呉高専)

有尾一郎・濱優太・横谷祐樹・安藤貴博・山下達也(広島大)

8月7日橋梁調査行程



- 調査行程 8/7
- 13:00 ①鳥声橋にて集合
- ②迫田橋(ポニートラス)
- 安芸高田市向原町③寺山橋
- ④吉野橋、⑤実重橋、
- ⑥市明橋、⑦高瀬橋、
- ⑧安駄橋、
- ⑨三篠第一橋梁
- ⑩鋼吊橋

①鳥声橋



←場所は安佐北区上深川駅近く(集合場所)。
三篠川に架かる単純RC桁道路橋。
川に大量の堆砂が流入し、2径間分の桁部は
下流に流され、1橋脚が大きく沈下、
1橋脚が水面下で転倒。1径間分は橋脚の
沈下でねじれて、3径間分が損傷。

①鳥声橋



↑RC橋脚が水面下で倒壊

2径間分RC主桁部が下流側に流出→



②迫田橋



←手前の護岸が大きく洗掘され、橋台部の支持がなくなり、1スパン分の上部工が流出。



③寺山橋



↑橋脚部拡大。

←欄干部に多くの流木等が留まっており、橋脚沈下。

④吉野橋



←2径間単純RC桁の橋。
橋脚部に流木等が残っており、
橋脚の流失によって、桁部落下。

⑤実重橋



橋体への直接ダメージはなかったが、
南側の橋台背面の盛土部が流出



⑥市明橋



↑RC橋脚拡大。

←対岸部は2径間RC構造。
中央のRC橋脚が沈下し、
単純桁部が傾斜し、
ガードレールが損傷。

⑦高瀬橋



←RC橋脚が不等沈下し、単純RC桁部に
損傷。ガードレールも大きく変形。

⑧安駄橋



↑新設されていた護岸も崩壊

←5つ存在したRC橋脚は、1つを残し、倒壊と流出。倒壊したRC橋脚の向きが、当初の位置から回転移動していた。

⑨三篠第一橋梁



↑南側の橋脚は残ったが、鈑桁部やレールが流出。

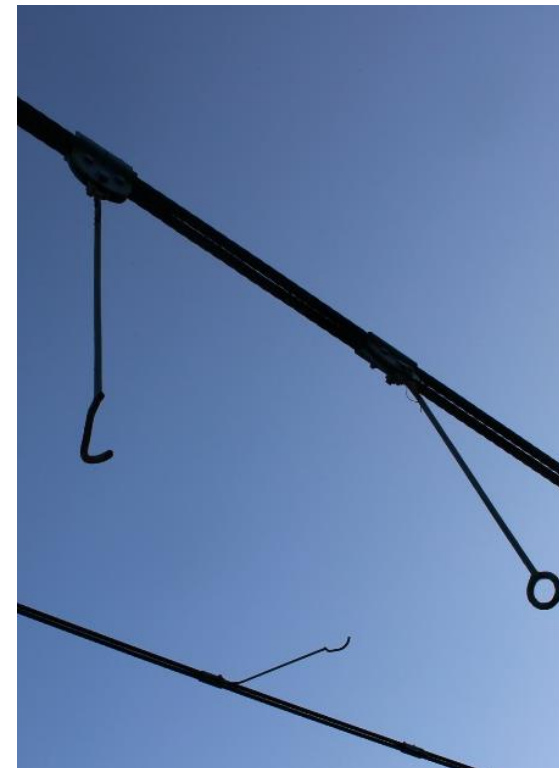
←北側の古い重力式橋脚は倒壊し、鈑桁部も流出。

⑩鋼吊橋（歩道橋）



←北西側の橋脚・基礎が流出したことによって、歩道補剛トラス部が流れ橋のように、南東側の岸にまとまって漂着。

- 北西側の護岸のダメージ大
↓主に鉄のワイヤーの継ぎ部が破壊



その他のエリアも、中小の被災橋は数多く

